

茶園におけるドローンによる散布試験（水道水散布）

京都府の茶園の多くを占める傾斜地茶園（京都府茶園面積の79.4%）では、大きく重い農薬タンクを運び、重く長いホースとノズルを持ちつつ、傾斜地の各畝間を移動しながら行う農薬散布作業が、非常に重労働になっています。

ドローン^{※1}による航空防除は遠隔操作が可能なため、傾斜地を農薬使用者自ら移動する必要が無く、労力低減と労働時間削減が可能な技術として注目されていますが、現在、茶では航空防除用の登録農薬が無い^{※2}ため、生産現場での利用はできません。

そこで、茶園での利用を検証するため、9月16日に当所茶園において、農薬散布用ドローンによる水道水の散布実験を実施しました。今後、散布の均一性等を解析し、茶園におけるドローンによる農薬散布の問題点、実用性を検証します。

※1 ドローン：遠隔操作できる無人航空機体のこと、マルチコプター（UAV）とも言う。



農薬散布用ドローンの説明を受ける実験参加者



茶園における農薬散布用ドローンによる散布